

1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1270101395		
法人名	社会福祉法人 萩会		
事業所名	グループホーム赤かぶ園		
所在地	〒260-0804 千葉県千葉市中央区赤井町33-1 (電話) 043-261-1113		
評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年7月13日	評価確定日	10月6日

【情報提供票より】(20年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	16 人	常勤	7 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート 造り	
	4 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他	水道光熱費20,000円, 食材料費36,000円, 理美容代・おむつ代実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)		有りの場合 償却の有無	退居時に、家賃未納金、居室修 復費等生産後、残金を返却
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	200 円
または1日当たり 1,200 円				

(4) 利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	14 名	男性	2 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大賀病院 医療法人社団 明陽会メイヨ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑に囲まれた閑静な場所で、近隣には小学校や大学もあり地域の交流もしやすい立地条件となっている。4階建ての複合施設の1階部分が2ユニットのグループホームとなっている。建物の構造上、施設的なイメージを受けるが、居室は入居者本人の意向にそって、使い慣れた家具や小物などが持ち込まれている。オープンキッチンが作業もやすく、共同のスペースであるリビングはとても広く開放感がある。2つのユニットの間にはデッキがあり、季節の花や野菜が植えられ家庭的な雰囲気を感じられる。新しい介護理念である「私らしい生活」を職員一同が共有し、家族の一員という意識を持ち入居者本位のケアを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 明快な理念と方針が作成され職員間で共有されていた。運営推進委員会は定期的に開催されるようになった。市区の担当へは定期的に出向いて連携を図るようになった。職員の外部研修への参加は充実しているとはいえないが、内部では月に1回勉強会が開かれていた。介護計画の見直しは2ユニット間での相違があり、ホームとしての仕組みづくり引続き検討が期待される。外出支援に関しても車両や職員の確保の課題があり、更なる努力が期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) はじめに職員各自が自己評価をし、その後、職員全員で話し合いがされ、管理者や運営者の意見も踏まえた上で今回の自己評価が作成された。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 討議内容としては、主に昨年の評価結果で指摘された課題に対して、委員から貴重な意見が出され運営上の改善へとつながっている。また、ホームに対する理解を深めてもらえるような内容も含まれている。委員の一人が近隣の小学校関係者であり、学校や地域との交流が盛んになっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームの入り口付近に意見箱が設置され、外部者への苦情受付のポスターの掲示もされているが、活用されていない状況である。そのため職員は面会時に家族に声をかけるなどして、気軽に相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣近所への日常的な挨拶や近隣から花や野菜などの差し入れがある。自治会に加入したことにより、地域での様子や行事の情報を得ることができるようになり、地域における行事への参加も盛んになった。特に、今年の小学校の運動会では、入居者のための玉入れの種目が用意され地域住民との交流の機会となった。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価後、職員間で話し合いが持たれわかりやすい介護理念と方針がつけられた。特に「私らしい生活」という理念には入居者各自のニーズに合った支援をしたいという思いがこめられ、職員は家族の一員という意識を持ち日々の常務に携わっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼後に職員全員で理念と方針を声に出して読み上げるにより、職員の意識を高めている。また、ホーム内に訪問者にも見える場所に理念と方針の掲示がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際の挨拶、自治会への加入、地区の敬老会、小学生のホーム訪問、子ども会行事、小学校の運動会など、地域との交流は盛んである。現在、入居者と職員が近所を訪問し、ホーム内での行事への参加を呼びかける計画が立てられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果を踏まえ職員間で話し合い、この1年を通して課題の達成に努めてきた。今回の評価では、まず職員各自が自己評価をし、その後、全体で話し合いが持たれ、運営者の意見も踏まえ、管理者が作成した。昨年の評価結果がホームの入り口で閲覧できる状態となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催されている。会議では運営上の改善に対して意見が出されている。ホームとしては、管理者が会議に参加することにより、地域の交流の機会が増え、情報が得られるようになっている。ホーム入り口に会議録が閲覧可能な状態になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回、管理者が市区担当者を直接訪問して、業務改善等の相談をしている。担当者の運営推進委員会への出席にはいたっていないが、会議の議事録を訪問の際に持参してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が1ヶ月に1回ほどの頻度で面会に来られるので、その際に入居者の生活状況、金銭管理の報告、行事案内のお知らせなどがされている。面会に来られない家族に対しては、職員が電話をかけ、状況を報告をし、面会してもらえよう伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、外部者への苦情受けの連絡先のポスターの掲示、重要事項説明書への記載はあるが、活用にはいたっていない。運営推進委員会の会議にも家族の出席はあるが、意見はあげられていない。	○	意見箱の配置場所の改善や、家族へのアンケートと、ホーム内の行事の際などに家族同士が話し合える場の提供などさらなる努力に期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の際には、送別会をもち入居者に対して説明がされている。日々の生活の中で、ユニット間での交流を密にすることにより、離職の際の入居者へのダメージを最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任、現任職員の年間計画表が作成されている。特に新任に対しては、業務開始から1ヶ月間は担当職員が必要に応じて支援する仕組みがある。外部研修はシフトの関係もあり職員の希望に合わせての参加までにはいたっていない。内部での月1回強会では職員の知識やケア技術の向上につながる内容が考えられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県、そして千葉市のグループホーム連絡会に加入し、定期的な会議に出席している。会議の中では、市への要望、情報交換、グループホームを運営する上での問題点などの話し合いがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	協力病院や複合施設でもあるケアハウスから入居される方が多いため、入居前にあまり時間をかけられる状況ではない。その代り、入居前には必ず、入居者、家族から要望や生活歴などの面談が行われ、入居後1ヶ月間は常に職員が1名付き添いホームでの環境に慣れる支援をしている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭菜園の水やり、食事の片付けなどできるだけ職員と入居者が一緒にするようにしている。特に食事やおやつの中には、職員は入居者と時間を共有することを心がけ、昔のことを話したり、家事の方法を学んだりと家族的な雰囲気が感じられるよう努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者本人の希望や意向を日常の生活の中から把握する努力を行っている。ご家族の面会時には可能な限りその時間を大切なものにし本人の生活歴や嗜好等を聞き取り、一人ひとりの思いや「私らしい生活」の把握に役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から入居者が何を求めているのかを考え、必要に応じてご家族に相談している。そして、入居者本人やケアに当たる職員からの意見を吸い上げ、それをサービス担当者会議などを通して介護計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、入居者に変化があった時はその都度行うとともに、定期的に行なうように努めている。しかし、入居者本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した見直し計画の作成と記録の整備ができていないものもある。		安定しているように見える入居者の場合であっても、新鮮な目で入居者や家族の今の意向や状況を確認するとともに、職員・ユニットリーダー・ケアマネ・管理者の気づきや情報、ケアのアイデアを集めて、実情に即した介護計画の見直しが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人が運営しているケアハウス、デイサービスと連携を図り必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人およびご家族の希望があればかかりつけ医の受診は可能だが、入居者のほとんどが協力病院での治療(処方)を受けており、特定疾患の人のみが希望の病院で受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化して、ホームでの生活が困難になった場合、関係者間で話し合い、入居者本人に一番良い方法を見出している。しかし終末期ケアの実施については困難なことも多くあり、ホームとしての方針はまだ明確化されていない。		入居者本人・家族は重度化した場合のことに大きな関心を持っていることから、出来るだけ早期からの話し合いが必要であり、そのためにもホームとしての方針の確立が重要と思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の記録は個人が特定できない様な記載方法を使用し、保管場所など個人情報の管理は徹底している。プライバシーにおいても常に個人の尊厳を大切にしながら、入居者の部屋への出入り、私物の管理などについては入居者の意向を確認しながらそれに沿う形で実践し、入居者一人ひとりに合った対応をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりや職員の都合よりも、できる限り入居者の意向やリズムを尊重しながらの支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設されているケアハウス、デイサービスと同じ厨房で、栄養管理された食事が提供されている。2週間に1度は買い物にでかけたり、誕生日に希望メニューも用意できる。食事の準備も職員と入居者が共に行き、入居者に合わせた盛り付けなど配慮している。		栄養管理されたバランスの良いメニューであるが、食べたい食事の希望が入居者からあれば皆で話し合ってメニューを変更できるなど、柔軟な対応ができると、更に入居者の「私らしい生活」が実現できると思われる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに入浴の提供方法が異なっているが、できるだけ入居者の希望に添う形で入浴できるよう支援している。入浴剤を使うなどの工夫をして、入居者が楽しみながら入浴できるよう努力している。特に夢棟は毎日の入浴が可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりにあった役割や楽しみごとを把握し、それを日常生活の中で行えるように支援している。またその内容が、入居者のペースにあったものでハビリ繋がるように配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気、入居者の状況、職員の勤務状況に併せて、入居者の希望に沿って外出支援を行なっているが、職員に無理が生ずるため、外出のニーズに十分応えられなくなっている。		職員の配置や地域のボランティアの協力を得るなど、外出支援の取組みが重要と思われる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、入居者1人ひとりの所在を把握することと生活ペースの中で行動の仕方を把握することで鍵をかけないケアを実践している。入居者は、日中は自由にウッドデッキやホーム内を行き来している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設された施設と共に日中、夜間想定避難訓練を行っている。また、地域防災の一員になり地域の協力が得られるようになってきている。しかしながら夜間の避難訓練に夜勤担当者が参加できていない。		防災訓練は、火災や地震、昼や夜、怪我等の緊急処置、地域との協力、ホームが地域に対してできることなどを想定して、状況によって夜勤担当者も含めて職員がどのような行動をとるべきかを訓練すると効果が高いと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者1人ひとりの栄養摂取や水分摂取は日々記録、管理されている。不足している場合は日常の習慣の中で自然に不足部分を確保できるように支援している。食事は栄養管理されたものが提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的なオープンキッチンと広いリビングダイニングには、入居者がテレビを見やすいようにテーブルと椅子が配置され、家庭的な雰囲気である。トイレ、浴室は清潔で、生活空間に花や入居者の写真を飾り、暖かみのある共用空間を作りだしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビを含め、入居者が使い慣れた家具などを持ち込むことができ、入居者本人の意向により自由に使うことができる。		